

審議会等の会議結果報告書

【担当課】文化財課（八ヶ岳総合博物館）

会議の名称	茅野市博物館協議会		
開催日時	令和3年6月18日（金） 午後1時30分～3時		
開催場所	八ヶ岳総合博物館 閲覧室		
出席者	小口隆秀委員長、田中克明副委員長、五十嵐みどり委員、市川純章委員、白鳥保美委員、河村洋委員、大勝弘子委員、田中正行委員、野口幸子委員、村松秀子委員、守屋修介委員、山田勝俊委員 北沢政英生涯学習部長、五味健志文化財課長、守矢昌文尖石縄文考古館長、両角徹生八ヶ岳総合博物館長、中澤正明神長官守矢史料館長、山科哲考古館係長、柳川英司博物館係長		
欠席者	武居三男委員、山田利幸教育長、両角勝元守矢史料館担当		
公開・非公開の別	(公開)・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
北沢生涯学習部長	<p>o 議事</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員の任命 3 教育長あいさつ 4 委員及び職員の自己紹介 5 茅野市博物館協議会設置条例について 6 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 正副委員長の互選について (2) 審議会等の会議の公開について (3) 各館 令和3年度事業計画について (4) その他 7 閉会 <p>o 会議録</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 (五味文化財課長) 2 委員の任命 (代理：北沢生涯学習部長) 3 教育長あいさつ（代理：北沢生涯学習部長） <p>生涯学習部長となり2年目となりました。よろしくお願いいたします。 本来でしたら、教育長がご挨拶、委嘱書の交付ということになっていたのですが、どうしても外せない事情によりまして、私が代理を務めさせていただきます。教育長の方から皆様にくれぐれもよろしくお伝えくださいという言付けを預かって参りました。</p> <p>博物館協議委員の皆様におかれましては、博物館の運営に対し、貴重なご意見を承る中で、教育行政に多大なご尽力を賜りまして、この場をお借りして感謝申し上げます。</p>		

	<p>先ほど、委嘱をさせていただきました。任期がこれから始まります。改めて、皆様に敬意を表するところでございます。</p> <p>本日は6月中でございます。早いもので今年ももうあと半年ぐらいということになってしまいました。しかしながら、1年以上も前から、様々な形で新型コロナウイルスの影響がございます。</p> <p>博物館をはじめとする2施設も例外ではございません。入館者や感染防止対策というところでもかなり影響が出ております。こんな時代だからこそ、皆さんで知恵を出し合い乗り切っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日の主な協議事項につきましては、令和3年度の事業計画でございますので、市民とともにつくる、3つの博物館をよりすばらしいものにしていただくよう、ご意見をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>4 委員及び職員の自己紹介</p> <p>5 茅野市博物館協議会設置条例について (説明：柳川博物館係長)</p> <p>6 協議事項</p> <p>(1) 正副委員長の互選について 委員長に小口隆秀委員、副委員長に田中克明委員が選出される。</p> <p>(2) 審議会等の会議の公開について (説明：柳川博物館係長)</p> <p>(3) 各館 令和3年度事業計画について</p> <p>①尖石縄文考古館 (説明：守矢館長)</p> <p>縄文プロジェクトの縄文検定が、去年の反省なのか、社会教育委員会でも述べましたが、縄文検定もそろそろ行き渡ったので、もういいのではないかという感じがあって、こういうことは、細く長くやるべきではないのかということ意見をいただいた。実際は、上級を志している人が、初級を受けていなければ初級検定を行うというようになっているようだが、いわゆるオープンな縄文検定をやらないようにも見える。</p> <p>小学生については、資料の「8 縄文学習（「縄文・市民科」）学校支援」に児童の縄文検定の受け入れはするとあり、支援はするとあるが、実態はどうなのか。茅野市では小学校のカリキュラムに縄文科を設定したので、一定学年になると全員チャレンジするようになっていると思うが、実際は学校の自由で、学校がやりたいといわない限りは縄文検定は行われぬのか。</p> <p>守矢考古館長 縄文検定だが、外部の養成は上級者まで受験する人という書き方をさせていただいている。</p> <p>その他には縄文が好きだ、興味があるという方の中で、初級から始め、中級・上級と場数を踏みながらの学習をしていただくということになる。先ほ</p>
--	--

	<p>ど申したガイドは外側に向かう形のガイドです。内側だけで、自分を高める学習という部分を生かす検定も既存的には行う。</p> <p>青少年自然の森に5年生から中学1年生がキャンプに来館し、その活動計画の中で、メニューの中に縄文検定に組み入れていただいている。</p>
委員	<p>諏訪東京理科大学は、学生が毎年300名が他所から来るので、大学に縁あって来て、一時的に茅野市民になったら、縄文検定くらい持って卒業してほしいと思っている。できれば、お声がけいただけると宣伝しやすいと思う。</p> <p>資料には書かれていないが、縄文検定の予定はしているということか。</p>
守矢考古館長 委員	<p>書かれてはいないが、縄文検定を行う機会はいくつかある。</p> <p>今話しがあったように、小学校5年生に縄文学習が位置付けられている。青少年自然の森のキャンプの時に縄文検定を一緒に行うこともあるし、全く別の日に設定されることもある。最初に縄文の学習をして、そのあと検定を受けることを毎年やっている。本校（玉川小学校）で言えば、今年の7月に尖石縄文考古館で学習し、そのあと検定を受けることになっている。</p>
委員	<p>縄文プロジェクトでガイドを育成するとあるが、現在ガイドの資格がある人数はどのくらいいるか。</p>
守矢考古館長	<p>現在はガイドの認定をしている人はいない。現在コロナで停滞しているが、旅行社から市の全体をガイドしていただける方いらっしゃいますかという要望や、尖石遺跡だけではなく、中ッ原縄文公園などの解説を併せてしていただけないでしょうかとのニーズもある。そうした場合、私どもの職員体制だけだと対応できない。検定合格者の方々の中には、自分たちの努力を示す場を作りたいという声もありこのような声も活かしていく。</p>
委員	<p>尖石縄文考古館は全国的に有名である。私くらいの年齢になると、高校などの同級生で縄文派がけっこういて、ぜひ見たいが、遠いのでなかなか行くことができない。コロナの時代というのはいろいろ不便なこともあるが、変化したこともあり、例えばいろいろな学会がリモートになって、私はここにおいても、全国の学会に参加できるようになった。そういうこの時代をとらえて、せっかくこんな企画されるので、これをリモートで発信するようにされてはいかがだろうか？今の企画を発信するとか、今ある展示を全国から見られるとか、少しずつ変えていくと、この時代をポジティブに先へ進んでいけると思う。尖石縄文考古館は大変有名でみんな関心を持っているので、ぜひやっていただきたい。費用もかかるだろうから、市の方でもぜひご援助いただきたい。</p>
守矢考古館長	<p>今、博物館、美術館特に展示部門について、なかなか来館できないという中で、いくつかの美術館では、バーチャル美術館等々の動きの中で、作品をどのように見せていくか考えているところである。それをどのようにするか悩ましい状況である。</p>
委員 守矢考古館長	<p>悩ましくもあるだろうが、新しく前へ進めていくことが重要と思う。</p> <p>どういう見せ方がいいのだろうというところ、全部見せてしまうのか、部分的に見せるのか、いろいろ手法が考えられるが、目下、検討課題である。情報については先生方で詳しい方がいらっしゃるかと思う。ご提案いただけたらと思う。</p> <p>あともう一つ、バーチャルできない部分、やはり縄文の佇まい、史跡の持つ佇まい、現場に来ないと感じられない息吹というもの、こういった中でも</p>

委員	現場に来ていただき、実物も見ていただいて、そうした、二つのあり方がやはり求められているのだと思う。環境を整えられれば一番いいのかと思う。
大勝委員	実際ボランティアで関わっている大勝委員、どうですか。オンラインで見てもらおうということについては。
委員	できたらいいと思うが、ボランティアはどうしても行かないとできないものである。しかし、活動をここ1年以上、行えない状況である。やっと6月になって、外来植物の駆除ができるみたいなので、少しずつやっていければと思う。
委員	今のはDX推進ということだと思うが、デジタル化推進を、ぜひ、学生はたくさんいるので、活躍の場として、悩ましいところとか、アイデアだとか、あるいは実際のワークするところとかは、仕事として学生が受けるかという、わからないが、ただ一緒になって考えて実験的にやることは大いにできると思うので、ぜひ、働きかけて欲しい。地域連携総合センター長が窓口になって繋ぐことになっている。
委員	大学も協力していただく貴重なご意見なので、ぜひよろしくお願ひしたい。高校生ももしかしたら活動できるかもしれない。
委員	②八ヶ岳総合博物館 (説明：両角館長)
委員	感染予防に大分苦慮しながら、計画を立てられているということが、両角館長の説明でよくわかったんじゃないかと思う。
委員	先ほどのデジタル化推進の関連でもあるが、以前から博物館の展示を動画サイトでやるということで、なかなか予算がない中で、大変だけれど工夫してやるということだったが、その後リニューアル、作り直したりとか、追加したりとかはやっているのか。何年前前に作ったきりか。
両角博物館長	なかなか苦慮しているところである。やりたい思いはいっぱいなのだが、どうすべきかが困っている段階である。
委員	別の考え方だが、縄文プロジェクトか Chuko ランドちのちので、U-tube で配信するといって、今日新聞に掲載されていた。若者たちの社会で、動画編集テクニックだとか、むしろ、ああいう人たちに働きかける方法があるのではないか。高校生はそういうことが大好きだ。動画作りとかすごいと思う。例えばプログラミングコンテストと言いながら、プログラミングコンテストの作品の半分は動画である。普段から高校生がそういう学校の教育とかと結びつくといいと思う。本学でも何か授業でできるといいと思うが、授業が直接ないので、学生の自由参加をとらなければならない。学校のカリキュラムと関連しているところとうまくつなげると、事前学習プラス動画も作ってくれたらラッキーとか、そのようなものも広い意味で、教育環境の推進とうまく合わせられると思った。何かうまい工夫をして、自分たちで全部やると、費用がかかるし、やりきれない。だからそういう市民力みたいな、使うと面白いし、それもまた後で相談したい。また、声をかけてみてほしい。
委員	デジタルで動画あるいはデジタルのデータを提供する場を公開するということか。
委員	最近のIT GIGAスクール構想とかと相俟って学校教育と連携できると思う。また、機会を見計らって、そのようなことが仕掛けられたらなど

委員	<p>思う。</p> <p>今の話の続きだが、私も在任時代に八ヶ岳総合博物館と子ども教室でお手伝いさせて頂いていたが、やはり子どもたちは、先ほど守矢考古館長もおっしゃっていた通り、リアルに来て、その場でやるということが大事である。これについても、いろいろ工夫してやっておられると思うし、今後もぜひやって頂きたい。新型コロナウイルスのためにモバイルプラネタリウムの出張も狭いドームの中に大人数で入るということで、今はなかなか難しい状況であると伺っているが、状況をしっかり整えて、早期に再開できることを願っている。</p> <p>理科大の学生が参加させていただいたときの話で、授業との連携が書いてあるが、授業にするだけではなくて、近いので、サークル活動みたいにできないか。</p> <p>尖石縄文考古館の方は遠くて、ちょっと行くと言っても学生たちは足がない。その点、総合博物館は本当に近いので、日頃の活動のできる中で、この中での展示品などの活動を一緒にやらせてもらって、せっかく全国から集まってきた学生達に八ヶ岳総合博物館と関連を持たせられればいいと思う。</p>
委員	<p>その関係で、2、3年前に市民研究員養成講座で、うちの学生にも呼びかけてくださいとお願いして、学内に呼びかけて応募者がなかったので申しわけなかったが、そんなにたくさん集まるものではないと思うが、もっと長く続けていきたいと思うので、何か、定期的に声かけてほしい。そうすると、選定しやすいので。そういう意味では科学教室の養成講座というのは、いいと思うね。ちなみにロボットのクラブ指導をいくつかの小学校でやっているが、その指導員を募集すると、ポツポツやりたいという学生が出てくる。そういう意味では科学教室は、学生にはいいのではないかなと思うので、ぜひ声がけしてほしい。</p>
委員	<p>私、かつて保育園に勤務していたが、保育園でも子どもたちを総合博物館や尖石縄文考古館へ、遠足や体験などで行っている。ただ行っても、幼児の活動できるところがあまりないので、特に博物館は来ても、2階の展示を見て怖いという思いをして、外でゆったり遊ぶというようなその程度で終わってしまい、尖石縄文考古館も展示物で服を着させてもらったりなど、ちよつとずつの体験をするが、魅力がもう一つだ。とても難しいことだと思うが、もう少し小さい子ども向けの何かを、ボランティアとかそのような方たちと一緒に考えていただくと、とても興味があつて、保育園や幼稚園などが、ここに来る回数も増えるのではないかと、その当時思っていた。何か機会があったら、考えていただきたいと思う。</p>
両角博物館長	<p>何か考えていかなければならない。今、保育園も2、3件きているが、やはり外で遊ぶということがメインになってしまっている。</p>
委員	<p>子ども科学講座は年齢の下限はあるか。</p>
両角博物館長	<p>やはり小学生が基準である。あまり年齢が低いと理解できない。</p>
委員	<p>9番の活用学習の堰の坂本養川と大河原堰に関するところだが、坂本養川イコール大河原堰というイメージをもたれている方が多いと思う。しかし、決してそうではなく、坂本養川は、八ヶ岳の山麓と入笠山山麓に16本も繰り越し堰を作っている。小学生には大河原堰は蓼科山の中腹から玉川と宮川の両久保地区に水を運んでいる堰であつて、大河原堰を初めとする16本の堰</p>

<p>委員</p>	<p>があることを教えた後に、自分の学校のそばに流れている堰が何という名前の堰なのか、正しい堰の名称を教えてあげたい。例えば豊平ならば滝之湯堰であり、故郷にある堰に焦点を当てて教えてあげることが大事だと思う。原村や富士見町などでも当然そうあるべきである。総合博物館は茅野市に限らない部分があり、八ヶ岳総合博物館が八ヶ岳山麓ということでは富士見町まで範囲となるので、大河原堰と書かれてしまうと、養川が作った八ヶ岳山麓に作った繰り越し堰が、狭く理解されてしまうかと思う。諏訪の地理や坂本養川堰に詳しい関雅一先生などの知識を持った人と八ヶ岳総合博物館がうまく連携していただけると、養川堰というすばらしい教材と子どもたちや地域の人たちをつなげてもらえる部分があるかなと思う。</p> <p>私は今、大河原土地改良区の玉川の理事をやっているが、学校で堰の学習をやっているとうとうと、地域の方に繋がり、また、いろいろな情報が得られる。そういう方たちも、学校と繋がって、自分たちが大切に維持管理してきている堰を子供たちや地域の人たちに伝えたいという気持ちもある。</p> <p>地域とのネットワークづくりをすることも大事だと思う。</p> <p>感染予防対策で、今回、いろいろな事業、体験型事業が中心の発表をしていただいたが、尖石縄文考古館もそうだが、感染予防のために遠くから来館できなくて入館者数が減少している。今回についても人数は制限する中で実施の方向でやるということだが、感染予防に対して両館の共通のガイドラインがあるのか。館で単独で感染対策をしているのか。</p>
<p>五味文化財課長</p>	<p>全国博物館協会のガイドラインや、長野県の対策方針に則っている。例えばあまり大人数イベントは避けた方がいいとか、この広さぐらいただったら、感染症対策をしながら事業を行っていくということになる。</p>
<p>委員</p>	<p>③神長官守矢史料館 (説明：中澤守矢史料館長)</p> <p>来年御柱祭で、古文書を展示するということだが、地元の間は興味があると思うが、守矢史料館は県内からも結構来訪者があるということをも以前聞いた。最近、来られないからあまり県外から来館しないと思うが、これから来年にかけて県外からも来館者が増えると思われる。そうすると、古文書よりも、今の、前回の御柱祭、その前の御柱祭、御柱祭はどういうものか、そのような質問も結構あると思う。</p> <p>私が職場にいて、県外から来られた先生からよくそういう質問されるが、どこいけばそのようなものが見られるのか、上社の前にある諏訪市博物館に行くかどうかというところなのだろうが、せっかく古文書の解説をするのだったら、現代の御柱祭についての展示があった方が観光客にもいいのではないかと思ったが、どうか。</p>
<p>中澤史料館長</p>	<p>守矢史料館ではないが、観光関係で作った冊子があるが、この残部がある。これがあるうちは、要望があった時には紹介している。</p> <p>企画展やどうしても聞きたいという質問に関しては、八ヶ岳総合博物館の学芸員が対応しているというところが現状である。</p>
<p>柳川博物館係長</p>	<p>御柱祭については、同時に諏訪市博物館が企画展を開催しており、そちらの方で、現代の展示を行っているので、展示が重複するので、こちらでは展示していない。</p>

委員	<p>重点事業のところで、守矢史料館周辺が茅野市の指定文化財となったということだが、あの付近は本当に昔の佇まいがある。前宮から細い旧道があって、史料館の近くを通って本宮まで続いていると思うが、守矢史料館周辺のエリアが面整備されるといいと思うが、どうか。</p>
柳川博物館係長	<p>現在、鎌倉道として整備され、歩いている方が多く見受けられる。守矢史料館でも、『守矢史料館周辺ガイドブック』というものを販売している。諏訪市と茅野市の公民館が連携して作ったガイドがある。</p>
委員	<p>ぜひ、守矢史料館とその周辺の魅力を発信してほしい。</p>
委員	<p>ビーナチャンネルで、前宮から鎌倉道の紹介がありました。私も見て、こんな道があるんだったら、ちょっと歩いてみたいなっていうように興味をそられたので、ぜひ宣伝を上手にやっていただけると、とてもいいと感じた。</p>
委員	<p>茅野市美術協会の会員として、生涯学習部長がいるのでお答えいただきたいのだが、昭和50年代に茅野市が生涯学習都市宣言をして、非常に活発に活動していた。今、美術協会の会員で、活動している年配の方はほとんどその講座の出身である。いろいろな講座があり、私は、油絵の入門講座、篠原昭登先生の講座を受講し、或る方は漆芸ですね、ある人は陶芸だとか、みなさんそういうことを勉強して、会社へ通いながら、夜7時半から9時まで受講していた。そういう活動が適切かと思っている。</p>
	<p>もう一つは、今、中央公民館という名前になったが、公民館活動で一本化して活動してきたが、現在は、美術館、公民館、ゆいわーくができて、どこでどういう関係で繋がっているかが不明な点がある。連携していると思うが、このあたりをもう少し協議して、我々が活動しやすいようにしてもらいたい。</p> <p>我々は、恩返しと言っては何だが、若い人たちに伝承していかなければならないということを考えていて、サークルを立ち上げ、皆、同じ志の人が何人かいて、子どもたちや、これから始めたい人とか、そういった人たちに伝えていこうと、我々ももう年配になってきたので、このようなことを考えている。</p>
北沢生涯学習部長	<p>昭和63年だと思うが、茅野市が学習都市宣言をして、広く内外にこのような活動をしているということを発信しました。その活動の元になってるのは、公民館活動である。もっと申し上げると、各地区の分館がいろいろ活性化をして、それを本館の方でとりまとめるという、昔はそれ一辺倒だったのだが、今、市民活動センターもでき、茅野市美術館も駅前に移ったり、いろいろ様子が変わってきている。</p>
	<p>根底にあるのは皆さんの学ぶ力や気持ちをどうやって下支えしていくかということが大事なことだと思っているので、館が変わったり、分散したりとか、いろいろあるが、学びたいという気持ちをどういうふうにして下支えしていくかということに特化していきたいと思う。</p>
	<p>公民館の職員体制も昔に比べると大分、変わってきた。各地区のコミュニティセンターの中に、地区公民館という位置付けになり、そこの職員が兼務になり、公民館活動をしてるので、そこの活動だけに特化できない部分もあり、また今後考えていかなければならない部分もある。当初の皆さんの思いも、当然、継続しなければならない。いろいろな多様化が進んでおり、それに対応しながら、やはり根源にあるものは、大事にしていかなければならないので、またご協力をお願いしたい。</p>

委員	<p>何年か前に話題となったが、先ほど言った諏訪地域の他の博物館との連携だが、連絡会があると聞いたが、最近特に活動はないか。</p>
両角博物館長 委員	<p>諏訪郡市博物館等連絡協議会がある。 縄文みたいなテーマだと別に茅野市に限らないので、それぞれが役割分担をして行くと、ムダがなくて、効果的なのではないかと思う。何か事業展開できることがあり、話題になれば、地域一帯でやっているという感じがしていいのではないか。</p>
五味文化財課長	<p>(4) その他 なし</p> <p>7 閉会 本日お忙しい、ご出席いただき、また貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。いろいろ館の運営の参考になるご意見いただきましたので、これからの運営にいかしていきたいと思えます。 それでは以上をもちまして、令和3年度第1回博物館協議会を閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。</p>